

病院までのアクセスについて

……病院への案内標識



交通機関をご利用の場合 [JR富山駅より] 富山地鉄バス(3番乗り場)で30分
[富山空港より] タクシーで20分



バス簡易時刻表

富山大学附属病院から→富山駅前・小杉駅前・高岡駅前へ

- 平日**
- 富山駅前行** 始発:7時20分 最終:21時15分
●約30~40分おき ●19時以降/約60分おき
 - 小杉駅前行** 始発:7時35分 最終:16時15分
●約60分おき ※9時および11時~13時台はありません
 - 高岡駅前行** 始発:8時45分 最終:17時40分
●約60分おき ※10時~11時、15時~16時台はありません

- 休日**
- 富山駅前行** 始発:7時30分 最終:21時10分
●7時~8時/約30~40分おき
●9時以降/約60分おき
 - 高岡駅前行**
●9時50分 12時50分 14時30分

富山駅前・小杉駅前・高岡駅前から→富山大学附属病院へ

- 平日**
- 富山駅前発** 始発:6時55分 最終:20時45分
◎富山駅前バスターミナル 3番のりば
●約30~40分おき ●19時以降/60分おき
 - 小杉駅前発** 始発:7時10分 最終:16時35分
●約60分おき ※8時~9時および11時~12時台はありません
 - 高岡駅前発** 始発:7時40分 最終:16時25分
◎高岡駅古城公園口側ターミナル 2番のりば
●約60分おき ※9時~10時および14時~15時台はありません

- 休日**
- 富山駅前発** 始発:7時00分 最終:20時40分
◎富山駅前バスターミナル 3番のりば
●7時/約30~50分おき
●8時以降/約60分おき
 - 高岡駅前発**
◎古城公園口側ターミナル 2番のりば
●8時50分 11時50分 13時40分

2014年1月 現在



案内

駐車場についてのお知らせ

皆さまの安全と駐車場の安定的な運営を行うため、来院される全ての皆さまに駐車料金をご負担いただくこととなりました。ご利用の皆さまには何卒ご理解下さいますようお願いいたします。

- 外来患者さん/8時間100円
- 付き添いの方、お見舞いの方/24時間300円



外来棟外観(平成29年10月完成予定)



富山大学附属病院だより

2014年のビジョン

日常の先にある
高度な病院を目指して

- 2014年私たちの挑戦
チーム医療「小児在宅医療」
連携病院のご案内「上越総合病院」
お正月の食べ過ぎに
読むくすり箱「アレルギー(花粉症)」
スタッフステーションから
季節のご挨拶

希
望
王

かわら版

Vol. 125

TOYAMA UNIVERSITY HOSPITAL

2014年1月発行



雪化粧したキャンパス内

富山大学附属病院 発行:富山大学附属病院 〒930-0194 富山市杉谷2630番地 076-434-2281(代表)

日常の先にある 高度な病院で 安心と安全を提供したい

日常生活と変わりなく 医療を受けられる病院に

Hospital (病院) は、Hospitality (ホスピタリティ=おもてなし) が語源であると言われています。病院や病氣と聞くと、不安で暗いと思われがちですが、誰でも身体を壊しやすいものです。病氣と上手につきあっていくことが大切ですし、ポジティブな向き合い方で、病氣もより良くなり、治ってくれるようです。これまでの病院の印象がどれだけ一新できるか、限らない挑戦をいたします。

それぞれの患者さんが心おだやかに日常を保ちながら治療を受けることができるように、Hospitality (ホスピタリティ=おもてなし) を職員とともに一つひとつ、勉強していきたいと思っています。その病院づくりのパートナーとしてANAにもご協力をいただき進めてまいります。乗客を目的地まで安全に届けるため、空を飛んでいるという不安を取り除き、乗客が安心できる質の高いもてなしがされています。病院は航空業界と大変似ているところがあり、これまでも医療のリスク管理でもたくさんの提案と指導をいただいております。

もてなすという経験が浅く未熟ではありますが、接遇

研修を通して患者さんから聞き出す力や伝える力を身につけ、さらに質の高い医療を提供したいと思います。

夢の医療を実現できる病院に

大学病院では、日々研究し続けた情報で、かつ安全性を専門家が確認し患者さんの治療にあたります。富山大学には医学部のほかに薬学部、工学部を含む8学部があります。各学部が持つ知識と情報を医療に役立てるために探求を続けていきます。再生医療をはじめ、iPS細胞を用いたイノベーティブな研究などを進めていきます。本院でそれらを結集し、臨床試験を行い富山の皆さんにいち早く福音をもたらすよう努力します。今後は最高水準の医療を国民に提供するために立ち上がった中部先端医療開発円環コンソーシアムに本院も加わることとなり、これまで以上に次世代医療の研究・開発を進めてまいります。

また、産業界と連携して共同研究も進めています。抗がん剤などでは治験を通して、安全性を確認するとともに効果のある薬を多くの人に広く使用していただけるように病院機構の改善を目指しております。大学にあるそ

2014年が始まりました。富山大学附属病院では病棟が昨年中にほぼ一新され、今年一年をかけて外来棟の改修や駐車場の整備に入ります。より充実した病院となるために欠かせない工事ではございますが、皆様のご協力のもと進めてまいりたいと思います。

また本院が皆さんにとって、地域の希望とさせていただけるよう、患者さんとともに歩み、地域の医療機関と連携を取りながら安全かつ高度な医療を行ってまいり

それぞれの専門性を生かすため、横のつながりを大切にし、強さを掛け合わせるによって新しい世界の扉を開きます。その結果、今までにないような高度な医療や先進的な医療を地域の皆さんに提供できるようになります。

地域に根ざした 大学病院として役割を果たす

富山は伝統的に医薬品の生産が盛んなほかに、製造業も多く、ものづくりの宝庫であります。それは富山県民の真面目で勤勉な気質が生み出した財産であり、本院35年の歴史にも良い影響を与えてきています。私たちは、富山からいただいた恩恵に感謝する意味でも、レゾナンスボックスとしての役割を果たしていきます。

ロボット技術を手術に応用する分野では、各手術室に導入できるように、ダヴィンチに比べて比較的安価で触診機能に優れた手術支援ロボットの開発を富山のメーカーや他大学などと共同で行い、今年からは臨床応用に向けた実験が始まります。富山の皆さんにいち早く提供できるように、研究を進めます。

ます。そして先進的医療の提供ができる病院、未来の医療を支える心豊かな人材づくりを担う大学病院としても、全職員で取り組み、富山から全国をリードする存在となるよう努力してまいります。

今年は雪も少なく、とても過ごしやすく感じます。しかし寒い季節は身体への負担がとてかかりやすいため、お身体のケアを十分おこない、どうぞ大切になさってください。



未来を背負う 教育機関としての大学病院

希望を持つことが、良い未来を拓いていきます。そしてこの病院には希望ともいえる人材がたくさんいます。そこで、4月より臨床実習の医学科5年と6年の学生は全国共用試験通過者として認定しStudent Doctorという名札を下げた実習させていただくことになりました。病院内で多くの経験をすることで、将来の医療を担っていく若者たちが育ちます。あたたかくも厳しいご指導をお願いいたします。

富山大学附属病院 病院長



富山の皆さんに医療をより身近に感じていただくための市民公開講座と入院患者さんやご家族のための病院コンサートは今後も開催を予定しています

2014年 私たちの挑戦

— 患者さんとともに歩む希望の病院を目指して —

「食べる幸せ」を支えたい

摂食・嚥下障害看護認定看護師 北5階病棟
應矢 紀子



1日でも早く美味しく食事ができるようにサポートしたいと思います

摂食・嚥下(せつしょく・えんげ)とは、食物を認識して口に取り込み、嚥んで飲み込んで胃に至るまでの一連の流れです。摂食・嚥下障害は、口やのどの腫瘍・炎症、脳血管障害、筋・神経難病、加齢などによる嚥下機能の低下が原因としてあげられます。また、摂食・嚥下障害が新たな病気を招くこともあります。最近では口の中の不衛生から誤嚥した唾液が主な原因で起こる誤嚥性肺炎の患者さんも増えており、そのために口やのどの機能が低下しないよう、口の清潔・栄養面・食事の

食べ方などについて専門的な立場からサポートしていききたいと思います。

「食べる」ことは、日常的な幸せでもあります。少しでも口から安全に食べられるように、また美味しいものを食べる楽しさを持ち続けられるように、今年も患者さんの「食べたい」という気持ちを現実に支えていききたいと思います。

こころの健康は社会全体で考えていきたい

神経精神科 教授
鈴木 道雄



ひとりでも多くの皆さんにこころの健康のことを知ってほしい

厚生労働省は2011年に、従来の「4大疾病」(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)に精神疾患を加えて、「5大疾病」とすることを決めました。その背景には、精神科を受診する患者数の急激な増加があり、精神疾患は「社会全体で取り組むべき国民病」とも言われています。このような重大な課題に対して、私たちが目指すべき重要ポイントは、早期診断です。一人ひとりの患者さんに合った治療をしっかりと考え、治療の副作用も最小化します。それらの実現には、医師、看護師、

心理士、精神保健福祉士、作業療法士など、多くのプロフェッショナルが力を合わせる必要があります。また、欠かさないのが、皆さんにこころの健康の問題は身近な人たちの配慮が必要であることを認識していただき、精神疾患の正しい知識を持つことです。

ひとりでも多くの皆さんが精神疾患について正しい知識を持ち、分け隔てなく語り合うことが、希望への第一歩であると思います。

糖尿病治療を新しく切り拓く

代謝・内分泌内科 教授
戸邊 一之



日々進歩する糖尿病治療を患者さんに届けたい

年末年始は、とかく食事をする機会が多くまた、天候の関係で運動も不足がちになります。糖尿病の治療の基本は、食事療法と運動療法ですので、忙しい毎日の中で工夫していただき、より良い血糖値のコントロールを目指してください。ヘモグロビンA1c(エーワンシー)という過去1~2ヶ月の血糖値の平均を示す数値が、7%未満であると血管合併症が進みにくいと言われております。最近の糖尿病の研究では、糖尿病の治療の開始は、早ければ早いほどその効果が大きいこと、また、たとえ合併症が進んだ状態で見つかったとしても血糖値・体重・血圧・脂質を正常化すると合併症が良くなる可能性があることがわかってきました。コントロールが良い状態の方はこれからも療養に励んで頂き、糖尿病の進行した合併症の状態で見つかったからでもしっかりと療養に努めてください。

糖尿病の治療もサポート体制もますます充実しており、

最近では1日の血糖値をモニターする器械(持続血糖モニターシステム)も登場しました。その結果、何回も採血しなくても、1日の血糖値がわかるようになりました。現在は入院中の患者さんに使っていただいています。また、新しいお薬やインスリン製剤が使えるようになり、今までにない特長もあります。ただし、お薬は常に副作用と隣り合わせですので、主治医の先生、薬剤師の方からの説明を十分に受けて注意深く服用していただけたらと思います。

今年も糖尿病の治療をさらに進め、患者さんに少しでも安心して暮らせる毎日をお届けできるようにしたいと思います。



チーム医療で患者さんにとって最適な治療を行いたい

チームで患者さん一人ひとりの希望をつくる

臨床腫瘍部 特命教授
菓子井 達彦

新年にあたって、「がん治療の希望と未来」をテーマに臨床腫瘍部での取り組みを紹介したいと思います。キーワードは、「新しい薬物療法」「早期からの緩和ケア」「多職種で取り組むチーム医療」です。

わが国における死亡原因の第1位は「がん」であり、3人に1人ががんによって死亡すると言われております。このような状況にあって、新しい抗がん剤の開発、外科的治療法や放射線治療法などの進歩により、患者さんの生活の質(Quality of Life)を保った延命や治癒が可能になりつつあります。

抗がん剤治療の中で、特に注目されているのが「分子標的薬」です。これは、がん細胞の増殖に関連した遺伝子やタンパク質の働きをお薬で押さえるもので、従来の抗がん剤と比較して、より副作用が少なく効果も高いことがわかっております。

また、患者さんの遺伝子のタイプによって最適な治療法を選択する「テーラーメイド治療」も可能となってきています。

患者さんの痛みやつらい症状などを取り除く「緩和ケア」も重要です。最近では、がんと診断された早期の段階から積極的な緩和ケアを行なうことによって、がんそのものへの治療にも良い影響を与えることがわかってきています。

抗がん剤治療や緩和ケアなどを効果的に行なうためには、医師だけの力では不十分です。富山大学附属病院では、医師、看護師、薬剤師など多職種の医療者が力を合わせて患者さんを支える「チーム医療」を推進しています。チーム医療を通して、患者さんにより快適にがんの治療や療養生活を送っていただけることを常に念頭において活動しています。新しい年が、患者さんや家族にとって、希望となる良い年になることを願って努力したいと思います。

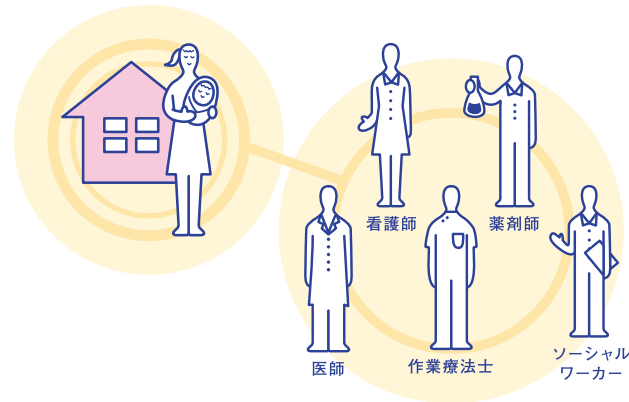
チーム医療「小児在宅医療」

いつもママとパパと一緒にいられるように、
チーム医療が病院と家庭をつなげます。

自宅で暮らしながらも、安心していただくために、
それぞれの分野の専門職による支援体制が整っています。



在宅でも安心できるサポート体制



赤ちゃんの笑顔が見れるように

NICUからGCUへ、そして「小児在宅医療」へ

妊娠中の母体管理や新生児医療の進歩に伴って、最重症の赤ちゃんを救命することができるようになりました。人工呼吸器を装着して経管栄養(胃に管を挿入してミルクを注入する方法)を行うことによって全身状態が安定し、赤ちゃんに笑顔が見られるようになります。このような高度な医療介入を必要としながらも日々発達していく赤ちゃんは、なるべくご両親と一緒に暮らすことが大切なことだと思います。当院では、状態が不安定な急性期はNICU(新生児集中治療室)で治療を行い、状態が安定したところでGCU(新生児治療回復室)に転棟して在宅医療への準備を進めています。退院の目途が立つと小児病棟へ転棟して、赤ちゃんをご家族と一緒に暮らす予備練習を行って退院となります。

赤ちゃんをご家族が自宅で生活しながら医療処置を行えるように、医師・看護師・作業療法士・ソーシャルワーカー・薬剤師など多職種の人が集まって意見交換を行い在宅医療への準備を進めてご家族を支援しています。

連携病院のご案内

新潟県上越市にある、上越総合病院さんは地域で最先端医療に取り組む病院です。地域に住む皆さんに心から安心できる医療を提供するため、懸命な努力をされています。

新潟県厚生連
上越総合病院

地域の安心をつくる、高度医療。

当院は、新潟県上越市にある318床の急性期中核病院です。新潟県厚生連は17病院がありますが、上越ブロック3病院(上越総合、糸魚川総合、けいなん総合)のセンター病院として、臨床研修や保健、医療、福祉の中心的役割を果たしております。

当院は、「ひとにやさしい病院、地域に貢献する病院」を基本理念として、(1)救急災害対策、(2)少子高齢化対策、(3)がん診療、(4)予防医学(健診)の4つを目標に掲げております。

平成18年に新築移転をして8年が経過しましたが、この間には、医師は17名から56名にと3倍以上に増員し、売り上げ高も37億円から85億円へと急成長をとげております。

新築時には、ヘリポート、ドクターカーを備え、その後ICUを増設し、地域の救急災害拠点病院となっております。母体がJAであることから、高齢者福祉に力を注いでいるのは言うまでもなく、少子化対策

として周産期医療、新生児、小児救急医療にも尽力しています。

平成21年に、世界最高水準の放射線がん治療器2台を導入したのを機に、北陸一のがん拠点病院をめざして、体制をさらに強化しております。1年後の新幹線の開通を前に、富山大学附属病院からもたくさんの優秀ながん専門医の派遣をいただいております。

当院附属の健診センターは、新潟県内でも数少ない学会認定施設になっておりますが、多くの新しいオプション機能を加えるなど、予防医学においても最先端を歩んでおります。

富山大学附属病院の関連病院として、研修医の育成をはじめ、高度医療での連携など、少しでもお役に立てるよう、これからも頑張ってもらいますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

新潟県厚生連上越総合病院 病院長
外山讓二



地域のために高度医療に挑戦する外山病院長とスタッフの皆さん



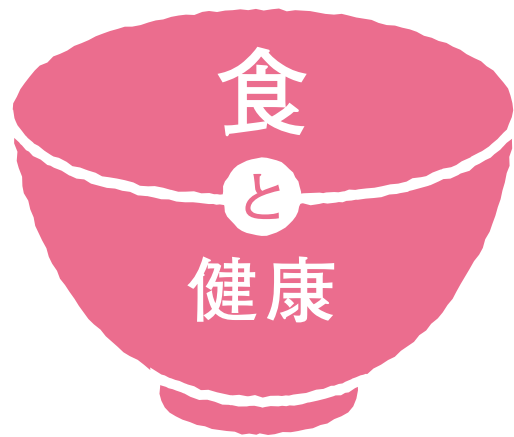
平成18年4月新築移転

放射線がん治療器「ペロ」
(IMRT、動体追尾)

[所在地] 新潟県上越市大道福田616番地
TEL.025-524-3000 FAX.025-524-3002
[休診日] 土曜・日曜・祝日
[診療科] 内科・神経内科・循環器内科・小児科・外科・乳腺外科・呼吸器外科・脳神経外科・産婦人科・耳鼻咽喉科・眼科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・リハビリテーション科・放射線科・放射線治療科・麻酔科・救急科・歯科口腔外科
[病床] 318床(ドック5床含む)



北陸自動車道 上越I.C.下車3分



お正月の食べ過ぎに

栄養部 栄養管理室長 矢後 恵子

身体を動かすことが少ないのに、食べ過ぎてしまうことが多いお正月。普段よりおいしい食べ物が豊富で、食べる機会も多く、つい食べ過ぎて胃腸に過度な負担がかかってしまいます。早めに対策し、身体への影響を最小限にしましょう。

暮らしの中で気をつけること

- 一、早めに体を休めること
- 一、ストレッチなど軽い運動をとり入れること
- 一、栄養のバランスがとれた食事を心がけること
- 一、間食のとりすぎに気をつけること

食事で気をつけること

- 一、食べ過ぎないように、腹7分目にすること
- 一、1日3食、主食・主菜・副菜をそろえて食べる
- 一、塩分は控えめにすること

疲れた胃腸にやさしい料理はいかがですか

油を使った料理を控え、肉やご飯の量を減らし、ビタミンやミネラルが多い野菜を充分とりましょう。

- 胃腸の負担を軽くする場合は、加熱した野菜を毎食100～150g程度とりましょう。野菜スープや蒸し野菜がおすすめです。胃もたれを感じる場合は、生野菜は控えめにすると良いでしょう。

- 胃痛などがある場合には、あまり胃を長時間空にしないよう、粘膜を保護するために、温かい牛乳やお粥などもおすすめです。数日間は、大量の油を使った料理やお菓子類などの間食のとりすぎ、アルコール、コーヒ、炭酸飲料などの飲み過ぎは控えましょう。
- 運動不足の身体のリフレッシュには、寒い時期無理に外へ出なくても、家の中で出来るストレッチなどの体操や軽い運動がおすすめです。

おすすめの料理を紹介

春の七草(せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ)は、ビタミンやミネラル、消化酵素などが含まれており、お粥にすることで、疲れた胃腸を元気にしてくれます。



七草粥

■材料/2人分
 ご飯…………… 300g
 水…………… 5～6カップ
 七草(青菜)…… 100～150g
 塩…………… 少々

■作り方

1. 鍋にご飯、水、塩を入れ、火にかけて煮立て、弱火にして10分ほど煮る。
2. 七草(青菜)は塩ゆでにし、冷水にとって水気をしぼり、みじん切りにする。
3. お粥に青菜を入れ、ひと煮立ちさせる。



野菜スープ

■材料/2人分
 かぶ…………… 100g
 人参…………… 30g
 キャベツ………… 100g
 玉ねぎ…………… 40g
 その他好みの野菜類
 だし昆布・干シイタケ… 適量
 塩・コショウ………… 少々

■作り方

1. 鍋に一口大に切った野菜、水、だし昆布、干シイタケとだし汁を入れ、柔らかくなるまで10分ほど煮る。
2. 塩・コショウで好みの味付けをし、器に盛り付ける。

読むくすり箱

アレルギー(花粉症)



花粉症ってどんな病気なの？

花粉症は、花粉によって生じるアレルギー疾患の総称で、主にアレルギー性鼻炎とアレルギー性結膜炎が生じます。花粉が鼻に入るとくしゃみ・鼻汁、目に入るとかゆみ・流涙・目の充血が起きます。

花粉症の症状のひどさに違いはあるの？

症状が起こる時期は人によってさまざまです。花粉が飛び始めるとすぐ症状がでる人やたくさん飛ばないとでえない人もいます。飛散する花粉数によって症状の強さが変わりますので、少ないときには花粉症の症状が全くでないこともあります。

スギ花粉症はどうして多いの？

花粉症の約70%はスギ花粉症だと推察されています。これは日本の国土に占めるスギ林の面積が大きく関係しているためでもあります(全国の森林の18%、国土の12%)。

花粉はいつ頃から飛び始めるの？

スギの花粉は夏から秋にかけて発育を続け、10月中旬頃に作られます。年を越して暖かくなり始めると、花粉が一斉に飛び始めます。

鼻炎や結膜炎はなにが原因で引き起こされるの？

スギ花粉症では、抗原と呼ばれるタンパク成分が鼻の粘膜や結膜表面を覆う涙液へ溶け出します。ここで花粉にあうスギ特異的IgE抗体が産生されます。このIgE抗体がスギ抗原をとらえると、アレルギー症状の原因となるヒスタミンやロイコトリエンなどが放出されます。これらの物質が、くしゃみや鼻汁、鼻づまりを生じさせます。

薬剤部 医薬品情報室
高木 昭佳

花粉症にはどんな治療法があるの？

花粉症の治療には、点眼薬や点鼻薬による局所療法や内服薬による全身療法といった対症療法と原因抗原の除去と回避や抗原特異的免疫療法(減感作療法)といった根治療法の2つに分類されます。

自分でできる予防法はあるの？

鼻と目に花粉が付着しないように、マスクやメガネを使うと有効です。また、花粉の飛散量が多いときには外出を控えたり、窓や戸を閉めておくとい良いでしょう。また、帰宅時には衣類や頭髮に付着した花粉をよく払ってから入室すると、屋内への花粉の持ち込み量を少なくできます。



スタッフステーションから

笑顔でコミュニケーションし 信頼ある連携をめざして

医療福祉サポートセンターは、地域医療連携、医療福祉・看護・栄養・苦情などの相談窓口です。

医療福祉相談は医療費・生活費などの経済的な問題や、医療・福祉・介護保険など各種制度やサービスの利用についてご相談いただいています。また、退院された後、患者さんが安心して生活ができるよう療養先や地域の方々との連携を図っています。

看護相談では、生活習慣病の方の療養指導をはじめ、禁煙外来のサポートやリウマチ・糖尿病教室を開催しています。栄養相談においては糖尿病・減塩・妊産婦教室や、また個別の栄養指導も行っています。さらに、がん相談支援センターや難病医療支援室の役割を担っており、がん患者さん・難病患者さんとその家族、およびサポーターの支援を行っています。

このように、事務職・医療ソーシャルワーカー・看護



医療福祉サポートセンターの皆さん

師・栄養士がそれぞれの専門分野を担当し、利用者の皆さんの心に寄り添う気持ちを忘れずに相談に応じています。何かお困りのことがありましたら、お気軽にお声がけください。

季節のご挨拶

病院機能と患者さんの 利便性の向上を目指して

本年度（平成25年4月）から、富山大学附属病院副院長として医療の活動及び環境整備を担当しております。

本院は現在、ハード面では附属病院再整備計画が進行中であります。病棟の増築・改修及びそれに伴う診療科の移転は昨年11月をもって完了し、現在の病床数は612床とフル稼働の状況です。工事期間中は患者さんや家族の方には色々ご不便をおかけしましたが、以前に比べて病室もゆったりと広くなり、デイルームや家族待合コーナーも充実するなど、アメニティーの面でも格段に向上したものと思っております。今後は、本年4月より新外来棟増築工事が着工される予定で、患者さん・家族の方には再び大変ご不便をおかけすることになるかと思いますが、現外来棟の改修を経て、平成29年には広く明るくきれいな新外来棟としてグランドオープンできる予定となっております。また、新外来棟と渡り廊下でつながる立体駐車場の建設も予定されており、特に冬期には快適に受診していただけるようになるものと思っております。

一方ソフト面では、本院の医療福祉サポートセンターは、以前から患者さんからの種々の相談の対応や、地域の医療関連施設や開業医の先生との間の患者さんの紹介の橋渡しなど、患者さんのための様々な活動にあたらせてい

ただいております。平成24年4月からは紹介患者事前予約システムを導入し、地域の病院・医院からのスムーズな紹介に取り組んでおり、初診患者さんの待ち時間の短縮や事前の検査予約などで成果をあげております。大学附属病院は、特定機能病院として高度で良質の医療を提供する使命があることはもちろんですが、地域に根ざし地域の皆さんから信頼される医療機関であるため、医療福祉サポートの面でも活動をさらに充実させていきたいと思っております。

以上のように、今後とも、患者さん及び病院職員が快適に希望をもって、そして安心して過ごせる病院となりますよう、ハード、ソフトの両面から、本院の医療活動及び環境整備の向上に努めてまいりたいと思っております。ご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

副院長（医療の活動及び環境整備担当）

嶋田 豊

和漢診療学講座 教授



季節のご挨拶

強みを活かした改革を進めるために

富山大学附属病院は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）の第39条「医学又は歯学に関する学部」を置く大学には、「医学又は歯学に関する学部」の教育研究に必要な施設として、附属施設である「附属病院」を置く、と定められていることにより、文部科学省の管轄する富山大学が設置する病院です。もちろん、病院を含む医療行政全般は厚生労働省の管轄となります。このような形態の病院は、一般的に珍しく、富山県では、唯一の病院となります。全国的に見ると、国立大学病院は42大学に設置されています。このことは、本学附属病院の特徴で、「教育」「臨床」「研究」が求められる機能となっております。

「教育」の幅は広く、学生では、医学科、看護学科、薬学部の学生教育、医師の初期臨床研修、専門職の研修としては救急救命士の病院実習など、本県唯一の医学系教育病院として様々な教育を担当しています。

「臨床」は実際の医療、臨床教育、臨床研究などで、特定機能病院として高度先進医療の開発と提供を行い、さらに新たな治療法の開発にも取り組んでいます。

「研究」は、遺伝子や細胞レベルの基礎的な研究から、様々な治療法の臨床研究や臨床試験なども行っています。

このように、大学附属病院は、他の医療機関にはない、独自の使命があり、病院全体で力を合わせて常に前進しています。

医学の進歩に伴い、医学生の教育も進歩します。平成26年度から、4年次生対象に社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が行う全国統一の共用試験と客観的臨床能力試験に合格して5年次に進級した医学生には、スチューデント・ドクターの称号が付与されることとなります。これは臨床実習の免許に相当するもので、本学附属病院でも新5年次生から本制度が始まります。

このように大学附属病院には、様々な使命があり、年々、変革を求められております。これからも「よりよい教育」「安全な医療」「高度先進医療の研究」に全職員一丸となって取り組みます。地域住民の皆さんのご理解、ご協力をお願いいたします。

副院長（医療安全管理担当）

奥寺 敬

救急・災害医学講座 教授



編集後記

今年の新年は、昨年と打って変わり雪のない穏やかな正月となりました。社会では、今年の積雪予想みに、景気高揚が進んでいるような、いないような微妙な様子です。

消費税が5%から8%になる厳しい年ですが、インフルエンザやノロウイルスに負けず、今年の正月のように緩やかに暖かい一年になることを願っています。

富大病院の平成26年は、新しい外来診療棟の増築工事が始まり、病院の顔ともいえる正面玄関が変わっていく年です。われわれ職員も新しい病院の建物に負けぬように、更なる一歩を歩みだしますのようしく願います。

●E-mail: magazine@med.u-toyama.ac.jp
●FAX.076-434-1463

病院事務部長 山崎 勝治



冬の間、患者さんの心を癒してくれる院内のイルミネーション